

山形大学紀要(農学)原稿執筆要項

1. 言語及び組版

和文又は欧文とし、原則として横二段の組版(9ポ, 25字詰42行)とする。

2. 用紙

- (1) 和文原稿は、原則としてワードプロセッサを用いて、A4判の用紙に周囲約3cmの余白を残し、25字×21行(4枚刷上がり1頁に相当)で印字する。審査終了後の原稿は電子媒体で提出すること。
- (2) 欧文原稿は、原則としてワードプロセッサを用いて、A4判の用紙に周囲約3cmの余白を残し、ダブルスペースで印字する。審査終了後の原稿は電子媒体で提出すること。

3. 原稿の記述

- (1) 述語及び記号は、各専門分野の学会が選定したもの又は、一般に慣用されているものを用い、特殊な用語やまぎらわしい記号は使用しない。
- (2) 数式や化学式は途中の演算や経過を省き、必要な結果のみを整理してわかりやすく書く。
- (3) 各種単位は、国際単位システムを使用する。
- (4) 頁数は用紙下中央に記入する。
- (5) 和文原稿は、表題、簡略表題、執筆者名、所属、欧文表題、欧文執筆者名、欧文所属、欧文要約(Summary)、本文、引用文献等の順を原則とする。所属の異なる執筆者による共著の場合は、下記の例のように執筆者名と所属にアスタリスク(*)をつけて区別する。
執筆者の現在の所属が投稿時と異なる場合は、原稿第1頁の下欄外に現在：(欧文の場合はPresent address：)に続けて記載する。
 - 1) 原則として当用漢字、現代かなづかいを用い、それ以外は使用しない。
 - 2) 生物の学名はイタリック体の指定(細線のアンダーライン)をする。ただし、イタリック体で印字されたものについては、この指定は不要である。生物の和名はカタカナとする。
外国の人名・地名等は、原語で表記する場合を除いてカタカナとする。ギリシャ文字、上付き・下付き等の区別は原稿に朱筆で指定する。

肉豚におけるWet Feeding法が肥育成績と体脂肪性状に及ぼす影響
(Wet Feeding法による肉豚の肥育成績の効果)

高橋敏能*・小林 満^{*1)}・萱場猛夫*・今田哲雄**
*山形大学農学部食料生命環境学科安全農産物生産学コース・
**山形県養豚試験場
(平成23年9月1日受付・平成23年11月30日受理)

Effect of a Wet Feeding System on the Results of Fattening and the Characteristics
of Adipose Tissue in Growing-Fattening Pig

Toshiyoshi TAKAHASHI*, Mitsuru KOBAYASHI^{*1)}, Takeo KAYABA*
and Tetsuo KONTA**

*Course of Safe and Reliable Agricultural Production,
Department of Food, Life, and Environmental Sciences,
Faculty of Agriculture, Yamagata University, Tsuruoka 997-8555, Japan

**Yamagata Prefectural Experiment Station of Swine Husbandry,
Sakata, 998-0112, Japan

(Received September 1, 2011・Accepted November 30, 2011)

Summary

A wet feeder to which

Key words :

1)現在：秋田県大館農業改良普及センター(Akita Prefectural Oodate Agriculture Development Office,
Oodate 017-0831, Japan)

キーワード：

(6) 欧文原稿は欧文表題，欧文簡略表題，欧文執筆者名，欧文所属，Summary，Key words，本文，引用文献の順とし，和文表題，和文執筆者名，和文所属，和文摘要は引用文献等の後を原則とする。

4. 簡略表題(Running title)

和文は20字以内，欧文はスペースを含めて40字以内をカッコに入れて書く。

5. 要約

和文・欧文原稿につける欧文要約の長さは250語以内とし，欧文原稿につける和文要約は1,000字以内とする。要約の中では改行したり，表・図・写真・数式を引用することはできない。

6. キーワード

論文の内容を適切に表現する語句を和文，欧文とも5語以内選び記載する。

- (1) 和文原稿：Summaryの後に欧語キーワード，1頁の脚注に日本語キーワードを記載する。
- (2) 欧文原稿：Summaryの後に欧語キーワード，和文摘要の後に日本語キーワードを記載する。
- (3) 日本語キーワードはアイウエオ順，欧語キーワードはabc順に記載する。

7. 文献の引用並びに注

引用方法（文献リスト及び本文中の引用並びに注）は，次の各号のいずれかを選ぶものとする。

- (1) 引用文献リストは，以下のように記述する。

筆頭執筆者名のアルファベット順及び発表年順に記載する。同一執筆者・同一発表年の論文は，発表年の後にa,b等をつけて区別する。

青葉 高(1967) Allium属花きの種子発芽に及ぼす温度条件の影響. 園芸学会雑誌. 36:333-338.

中川昌一(1978) 果樹園芸原論. 236-249. 養賢堂. 東京.

Schneider, M. J., R. F. Troxler and P. D. Voth(1967) Occurrence of indoleacetic acid in the bryophytes. Botanical Gazette. 128:174-179.

Simms,E.L.(1992) The evolution of plant resistance and correlated characters. 15-16. Insect-plant Relationships (eds.Menken, S.B.J. et al.) Kluwer Academic Publishers, Dordrecht.

本文中の引用は次のようにする。

[例 1] 著者が2名までは姓を記し，和文誌は「・」，欧文誌は「and」で結び，3名以上は筆頭執筆者の姓に和文誌は「ら」，欧文誌は「et al.」を付ける。

[例 2] 青葉(1967)によれば，.....。

[例 3]と報告されている(Schneider et al., 1967; Simms, 1992)。

- (2) 投稿論文の内容に最も関連する学会が定めた引用方法による。

8. 表，図及び写真

表，図及び写真枚数は必要最小限とし，大きさは，一印刷頁(約17×22cm)に納まるものを限度とする。表と図は一つずつ別紙に書き，本文に表・図・写真を挿入する箇所を原稿右欄外に朱筆で指示する。和文原稿の表・図・写真の説明(Caption)は欧文で記述してもよい。

- (1) 表の罫線は最小限にとどめ，縦線は用いないことが望ましい。斜線はさけ，各表の上欄に表番号(表1，表2等)と簡明な表題をつける。

- (2) 図は原則として，図中の文字，数字，軸の説明も含めてコンピュータソフトウェアで作成し，そのまま製版可能なようにする。

各図の説明は，別紙にまとめて図番号(図1，図2等)と説明文を書いてもよい。

- (3) 写真は原則として，コンピュータソフトウェアで作成し，そのまま製版可能なようにする。

9. その他

謝辞は，本文の文末に記載するか，又は章を改めて記載する。

(平成27年5月21日 農学編編集委員会)